

ヘンビル市から 訪問団来市

友好の絆 さらに深まる



テネシー州ヘンダーソンビル市と姉妹都市を提携してから18年が過ぎました。今回の公式訪問団は、ジム・ヒュークア市長をはじめとする総勢13名の皆さんが都留市を訪れました。

訪問団の皆さんは、滞在中ホームステイを通して、日本の生活様式や文化に触れ親睦を深めて行きました。

とくに、今回4組の方々が初めてのホストファミリーでしたが、5日間充実した時間を過ごされました。

また、今年は、国際ボランティア年であり、広報で募集しました「通訳ボランティア」の皆さんには、通訳はもちろん、歓迎会・送別会での司会をお願いし、進行に協力していただきました。また、「ホストファミリーボランティア」



●歓迎会
大歓迎の中、小林市長と握手を交わす、ヘンダーソンビル友好委員会ベッツィ・ウエドキンズ会長。



●富士山
5合目ではあいにくの天候でしたが、祈りが通じたのか、途中、ほんの少しの時間でしたが、富士山を見ることができました。初めて見る富士山はどうだったのでしょうか。



●サミット
代表者会議では、今までの交流の反省と確認が行われました。また姉妹都市提携20周年記念事業・記念誌発行などについての話し合いがもたれました。

初めてのホストファミリーを 経験して 奈良直久さんご家族



あつという間の5日間でした。始めは、不安で不安で...。けれどロット夫妻に会ってみると、とても優しい人達でした。いつも笑顔で、私たち家族に気遣ってくれました。心配していた会話は、私たちが「ん？」て顔をすると言葉を変え、ゆっくり話してくれました。英和・和英辞書を使い、あとは身振り手振りでも何とかなりました。言葉ではなく人間対人間なんだと感じました。食事でも心配していましたが、日本食は大好きとの事、箸も上手に使い、納豆・梅・けんちん汁など全部おいしいと食べてくれました。アメリカにいる家族の写真を見せてもらったり、私たちの家族の写真を見せたり、一緒に市内・外の観光へ行き、あつと言う間に時が過ぎ、お別れの日になってしまいました。「また日本に来て」「ヘンダーソンへ絶対おいで」と別れを惜しんでいると、子どもたちは、ポロポロと涙を流していました。長いと思っていた5日間は過ぎてみると短すぎたように感じ、不安でいっぱいだった心は、充実感で満たされていました。心が通じた事、何より優しさ・豊かさ・強さを兼ね備えたロット夫妻に出会えた事は、初めての経験でしたが、私たち家族にとって、すばらしい、貴重な思い出となりました。また、市内で見学させていただいたお店の方々、市役所はじめ関係者の方々には、大変お世話になり都留市民の温かさにも触れさせて頂く事ができ、本当にありがとうございました。